

2023年4月30日

2022 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 こらそん
代表者・役職名 氏名 職員 水上真

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

知的障害児者の余暇活動の充実と地域における社会参加の増進

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2004年4月に立川市手をつなぐ親の会有志から地域デイグループとして学齢児の余暇活動を支援する為に発足。設立以後は立川市内の施設を利用しながら、放課後・休日の余暇活動を中心に活動。2012年に法人格を取得。現在は学齢から成人まで幅広い年齢や障害特性の利用者の支援を行っています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

コロナウィルスの流行に伴い、障害のある全ての当事者の生活は健常者より更に多くの困難に直面しています。当事者は主体的に余暇を豊かにすることが難しく、感染症の完全な収束の見えない中で、前回の助成で実現した当事者が豊かに暮らす為の機会や場所を継続する事の重要性や価値を当事者本人、支援者双方が実感した事が申請の理由です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

貴団体からの昨年の助成を受けて実現した、講師を招いての活動を継続します。エアロビクス、リトミック、運動療育など幅広いプログラムを行う事で、楽しみや喜びの中で心身の発散が出来る機会を設けます。学齢部においてはバランス感覚や体力の向上など身体機能への良点の他、成長期に必要な感覚統合も養います。成人部においても、学齢期との比較で著しく減少する心身発散の機会を確保します。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

新型コロナウイルスの収束が延びた事による講師への影響で、申請時の見通しより少ない回数での実施となりました。リトミックは平均して月4~5回合計57回実施、運動療育は平均して月1回合計9回実施、エアロビクスは平均し月2回合計21回実施が出来ました。感染症の完全な収束の見えない中でのこうした室内余暇の充実、当事者が豊かに暮らす為の機会や場所を継続確保において重要な役割を果たせました。また地域内で講師活動を行う各講師の活動場所の確保に繋がり、当事者のみならず地域福祉や活動への還元の一環も担えました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

貴団体からの2期連続での助成もあり、困難な時世の中でも当事者の余暇の充実が出来ました。制約がある中だからこそ見つけられた工夫や、当事者と支援者が相互で感じられた価値も多分にありました。”辛い時期ではあったが、あの時期だったからこそ出来た事、感じられた事があった”と、良い記憶として振り返れる為には、収束してからの期間にあたる今後の活動の中で、体験をフィードバックし、更に豊かな余暇を発展継続させてゆく事が重要であると考えます。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



リトミック活動の様子(リズム遊び)

左：成人部 / 右：学齢部



エアロビクスの様子(成人)